

震災

む

被災地の生の声

東北・関東の太平洋岸各地に大きな災厄をもたらした3・11の大震災から一年余、震災

の記録集が続けて出た。赤坂憲雄編『鎮魂と再生』（藤原書店・三三六〇円）、金菱清編『3・11 慟哭の記録』（新曜社・二九四〇円）、とうしんろく編『聞き書き 震災体験』（新泉社・二二〇〇円）。震災の体験者自身が取材編集し、津波地震被害、原発事故に揺



記者の1冊

れた現地からの生の声を伝える、どれも稀有な記録集だ。中で『鎮魂と再生』は、東北の文化や歴史を探るへ東北学を実践してきた仙台の編集集団が一年間をかけて被災各地をめぐり、実にさまざまな人たちへの聞き書き集だ。極限状況を強いられた3・

11と直後の緊迫の記述、爪先（つまさき）だったまま不自由な生活を続けたその後の様子。時間がたつにつれ直面する現実や揺れ動く心理……。暮らしの背後に潜む東北の風土や負の歴史も言葉の端々から垣間見える。「記憶の場を築く長い闘いの第一歩」と言う。（大）